

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 可茂特別支援学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和4年10月31日(月) 10:00~11:20
- 3 開催場所 可茂特別支援学校プレイルーム
- 4 参加者

会長	板津 幹彦	NPO法人プラス・ワン理事
副会長	生田 靖子	可児市こども発達支援センターくれよん所長
委員	三好 正司	元公立学校教頭
	蔵澄 寿磨子	御嵩町あゆみ館施設長(欠席)
	片桐 久美	牧野区長
	伊藤 佳苗	PTA会長
学校側	高井 繁喜	校長
	村橋 弘	事務部長
	河合 浩司	教頭
	村橋 昌則	教頭
	佐藤 洋子	小学部主事
	古田 康子	中学部主事
	八束 功子	高等部主事
	本田 知子	教務主任

5 会議の概要(協議事項)

(1) 令和4年度前期の学校運営について

学校 : 令和4年度前期の学校運営(資料)にて説明

意見1 : 先日、校内の見学をさせていただいたが、一人一人に合った授業が行われ、落ち着いて学習できていた。また、ICT機器を活用した授業が多くみられた。
⇒分かる授業、理解度を上げるための効果的な教材作成を意識して日々取り組んでいる。

意見2 : 学校全体としては、外国籍児童生徒の割合はどれくらいか。

⇒約5分の1で、地域柄多い方である。

意見3 : コロナ禍の中、工夫しながらPTA活動が活発に行われている。

○令和4年度前期の学校運営については、全委員の理解を得ることができた。

(2) 学校評価について

学校 : 令和4年度学校評価の分析結果と課題(資料)にて説明

意見1 : 全般に保護者からの評価が良く、信頼関係が構築されているのではないかと。

教材教具についての評価は、学校に期待している気持ちの表れである。懇談等の際に質問はあるか。

⇒肢体不自由・病弱クラスは保護者の関心も高く、その都度説明している。

意見2 : 外国籍の方へのアンケートのとり方はどのようになっているのか。また、回収率が

悪い原因は何か。

⇒支援員が翻訳（ポルトガル語、タガログ語、英語）をして渡している。

⇒生活習慣や、基本的な考え方、文化の相違等があるからだと考える。さらに細かい配慮が必要であると感じている。

意見3：会社でも外国籍の方とのコミュニケーションは、生活習慣や基本的な考え方の違いから難しいと感じる場面がある。繰り返しフォローしていかなければならない。

意見4：働き方改革について、書類等不要と思われるものはないか。私が勤めていた時も同じような調査が繰り返され、何か事件があるたびに業務や書類が増えていった。状況はあまり変わっていないと思うが、残業の状況や病気の状況はどうか。

⇒業務については、できるだけ精査し進めている。また、普段からの声掛けにより、意識改革が進み、残業時間は全体としては減少傾向にある。

⇒個人の病気はあるが、体調を崩している職員はなく、皆元気に職務に励んでいる。

意見5：コロナ禍で地元と交流がない。落ち着いたら地元の交流センターでの催し物などに参加していただけるとよい。

⇒一部の農家などと交流がある程度。今後活動の幅を広げていきたい。製品販売等できる場があったら紹介していただきたい。

意見6：アンケート後に、授業参観や保護者の交流など情報提供する場があった。来年度はアンケートに反映されよくなるのではないかな。

○学校評価については、全委員の理解を得ることができた。

(3) 学校課題の解決に向けた取組について

学校：学校課題と解決に向けた取組（資料）にて説明

意見1：保護者との信頼関係形成に連絡帳を活用できないか。

意見2：部活動や資格取得など、児童生徒が活躍している話が聞けて良かった。様々な場面で自己肯定感の育成に励んでいただきたい。

意見3：加茂農林高校と共同開発を行っている「バタフライピー」も、貴校とも連携していけるとよい。

⇒高等部の作業学習で取組むよう進めていきたい。

意見4：9月に国連から日本の特別支援教育は障がい者を隔離・分離しているという指摘があった。10月、新聞記事で普通学級に通いたいというものが掲載されていた。このことについてどのように思われるか。

⇒インクルーシブ教育の理念からきている指摘であると考え。岐阜県では、自分の学びに適した場を選択できるというインクルーシブ教育が進められている。外国から見れば、分離しているように見えるかもしれない。今日の日本の教育の中では、一般の学校に通える可能性が高くなっている。本人、保護者のニーズと将来を見据えて選択していけるとよい。

意見2：30年ほど前は、働くことを優先して支援してきた。最近では雇用環境も変わり、良い就職先が増えてきた。これまで取組んできた特別支援教育には良い面がたくさんある。是非アピールをしてほしい。

6 会議のまとめ

第2回学校運営協議会では、前期の学校運営、学校評価、学校課題解決への取組について、全委員の理解を得ることができた。

会長からは、当校の取組を積極的に情報発信するとともに、特別支援学校の良さをアピールしていくとよいなどの意見が出された。

今回の第2回学校運営協議会での意見を、後期の学校運営の改善につなげていく。